

## <第6回多文化理解講座報告> “耳と目で感じよう～インドの音楽と踊り”

2023年11月11日(土)、世田谷美術館講堂にて第6回多文化理解講座「耳と目で感じよう～インドの音楽と踊り」を開催しました。講師にはシタール奏者で東京音楽大学特任教授の小日向英俊様をお迎えし、北インド古典音楽と南インド古典舞踊についてのお話と演奏や踊りを通して、インドの伝統文化をご紹介します。100名以上の方がご参加くださり、活気あふれる講座となりました。

第一部は、北インド古典音楽についてのお話と演奏です。はじめに、北インドの伝統楽器であるシタール(弦楽器)とタブラー・バーヤーン(打楽器)により《ラーガ・ブーパリー》という曲が演奏されました。シタール演奏は小日向様、タブラー伴奏は森山繁様です。楽器の美しい音色が鳴り響くと、会場全体が一瞬にしてインドの雰囲気包まれました。



続いて、インドの音楽文化について小日向様からお話を伺いました。IT 大国のイメージが強いインドですが、古代インドの雰囲気が今も残り、伝統的な文化が継承されています。その一つである伝統的なインド音楽は、インド、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、スリランカなどの広い地域で演奏されています。インド世界(南アジア)は広く、その文化も多様で、インドカレーのスタイルが北と南で大きく異なるように、

インド音楽にも北(ヒンドゥスターニー音楽)と南(カルナータカ音楽)の文化があります。インド音楽の特徴は、「ターラ」(リズム周期)と「ラーガ」(音階)に基づいて楽譜を用いず即興的に演奏されることだということを、実演とともに解説していただきました。また、日本におけるインド系コミュニティの集住地域(横浜、神戸、沖縄、東京)とその音楽活動が紹介され、日本でもインドの音楽に間近に触れる機会が増えてきた例としてディワリフェスタ西葛西のダンスや川崎のお祭り、沖縄ヒンドゥー寺院で歌われる宗教歌謡の動画を視聴しました。私達がインド音楽をより身近なものとして親しむことで「多文化共生にも音楽が役に立つのではないか」という小日向様からのメッセージでお話が締めくくられました。

最後に《ラーガ・マドゥーヴァンティー》という魅惑的な音階に基づく曲が演奏されました。シタールとタブラーが対話をするように掛け合いつつ、徐々にテンポを速めて盛り上がり、即興演奏を展開していく様は実に圧巻で、演奏の途中で思わず会場から拍手が沸き起こる場面もありました。

第二部では、南インド古典舞踊が紹介されました。インド古典舞踊家の丸橋広実様が南インドのケララ州に伝わる優雅なモヒニアッタム舞踊を4曲、踊られました。踊りの合間には、丸橋様の楽しくわかりやすい解説で「ムドラ」と呼ばれる踊りの手の表現の意味を学ぶことができました。



アンケートでは「インドを目一杯体感でき、一層インド文化に対して興味がわきました」「インド文化、日本で生活されているインド出身の方々など、今まで知らないことにも触れることが出来てよかった」「近くで演奏・舞を観られてインドの感覚の不思議さや素敵さを知りました」などの感想が寄せられました。ご来場の皆さま、ありがとうございました。